



青い森鉄道線「目時・八戸間」及び並行在来線「八戸・青森間」の持続的な安定経営に向けて

本県の並行在来線区間は、地域住民の日常生活に欠かすことのできない貴重な足として極めて重要な役割を担っています。

しかしながら、現在の青い森鉄道線目時～八戸間は、実質的に年間約3億円の赤字となる非常に厳しい経営状況にあり、今後青森まで延伸しても引き続き厳しい経営環境におかれることが想定されます。加えて、青森開業時にはJRからの鉄道資産の購入など初期投資等にも多額の県費負担が懸念されるところです。

一方で、本県の並行在来線区間は、一日平均約40本もの貨物列車が走行する本州と北海道を結ぶ国の物流政策上極めて重要な路線であるため、旅客鉄道の輸送量が必要とする水準をはるかに超えた規模の鉄道施設等を、県が保有・管理せざるを得ない状況となっています。

つきましては、並行在来線が青い森鉄道線として将来にわたり安定的な経営を維持できるよう、次の事項について特段のご配慮をお願い申し上げます。

記

- 1 並行在来線維持のための県費負担に係る一定の助成措置を講ずること (特別交付税等)
- 2 現行補助制度の対象事業者及び対象事業を拡充すること (災害復旧事業費補助金等)
- 3 線路使用料における対象経費を見直しすること (資本費の対象経費算入等)
- 4 新たな経営分離区間に係る資産取得等初期投資に対する更なる助成措置を講ずること (初期投資軽減への協力等)

平成18年9月20日

青森県知事 三村 申吾